

INTERIM REPORT 2009

第59期 中間報告書 2008.3.1~2008.8.31

point

株式会社ポイント
〒104-0028 東京都中央区八重洲二丁目7番2号 八重洲三井ビルディング10階
Tel. 03-3243-6011 Fax. 03-3243-6022
<http://www.point.co.jp/>

point

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第59期中間期における事業のご報告をするにあたり、ひとことご挨拶申し上げます。



代表取締役社長 石井 稔晃

当中間期も、積極的な店舗展開を実施し、着実な成果を残しました。

当中間期は、原油価格の高騰や原材料価格の値上がりを背景として、昨秋以降の景気減速感がより顕著となり、厳しい消費環境が続きました。加えて、春先から初夏にかけて雨の日が多く、かつ気温も低めに推移するなど、当社グループが属するカジュアルウェア市場の事業環境は厳しいものとなりました。

このような環境の中で、当社グループは、「ビジネスモデルの展開と企業力強化」をテーマとする中期経営計画(TOP9)の総仕上げの1年として、ビジネスモデルのさらなる進化を基本方針に据え、期初に掲げた各種施策を着実に実行してまいりました。店舗展開においては、レブシムローリーズ

ファームの18店舗(うち業態変更1店舗)をはじめとする60店舗(同2店舗)の戦略的な出店を実施し、当中間期末における店舗数を517店舗とし、規模の拡大による継続的成長を図りました。また、広告宣伝の戦略的な取り組みや、効率的なオペレーションの実施により利益の確保に努め、その結果、当中間期における連結業績は、売上高384億25百万円(前年同期比19.8%増)、経常利益60億78百万円(同13.6%増)、中間純利益33億50百万円(同9.3%増)と、増収増益を達成することができました。

成長期にあるブランドの存在感が大きなものとなりました。

ブランド別では、ジーナシス、ヘザー、アパートバイローリーズ、レブシムローリーズファームが高い伸び率を示しました。特にジーナシスは、当期中に売上高100億円の達成が視野に入るところまでの成長を見せており、ローリーズファーム、グローバルワークに続く第3の柱として力強さを増しております。さらに、市場に投入して3期目になるアパートバイローリーズとレブシムローリーズファームが成長期に入り、レイジブルー、ヘザー、ハレを加えた伸び盛りのブランドの存在感がますます大きなものとなりました。これにより、TOP9で掲げる「複数ブランドの開発育成による業容の拡大と経営安定化」の実現に手ごたえを感じております。

新ブランド育成や海外展開も着実に進展しています。

2007年11月に改正まちづくり三法が全面施行され、当期には郊外型の大型ショッピングセンター(SC)の開業がピークを迎えます。そこで、従来から進めてきたファッションビルやSCへの出店に加え、新たな顧客へのアプローチとして商圏の小さな近隣型ショッピングセンター(NSC)への出店を行うため、新ブランド「インメルカート」を2008年4月に立ち上げました。また、2007年12月に香港に現地法人を設立し、2008年3月にはローリーズ

ファーム、ジーナシスを出店しました。

新ブランドの立ち上げおよび香港進出は、いずれも順調に推移しており、今後の成長を担うビジネスとして期待しております。

ブランド力の強化を進めました。

成熟期にあるローリーズファームとグローバルワークについては、ブランド力のさらなる強化に向けた新たな試みにチャレンジします。具体的には、ローリーズファーム+アパートバイローリーズといった、各ブランドを組み合わせ、同一店舗で出店する「複合店舗」での出店を行っていきます。従来より広い店舗スペースで、兄弟・姉妹ブランドを組み合わせることで、お客様に、「高い利便性」を提供するとともに、「商品選びの楽しさ」をさらに感じていただくことを狙いとしております。併せて、店舗運営効率の向上を目指します。また、商品開発・生産・調達などに精通した人材の採用を進め、商品企画機能の強化にも着手しました。これらのアプローチを通じて、さらなるブランド力の強化を図っていきたくと考えております。

次期中期経営計画におけるさらなる飛躍に向け、経営課題に取り組んでまいります。

積極的な店舗戦略や販売戦略を支える人材力・組織力の強化も重要な経営課題です。当中間期は、営業本部を再編し、ブランド間の連携強化を図るとともに、ポイントのDNAを次世代に継承すべく、中堅幹部であるエリアマネジャーの育成・支援を重点的に行いました。さらに、経営諮問委員会の設置や内部統制プロセスの整備による企業力の強化にも取り組みました。

今後も株主の皆様へ未永く株式を保有いただけるよう、これまでの成長に満足せず、さらなる企業価値の向上を目指してまいりますので、引き続きご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

	当中間期	通期見通し
売上高	384 億円 (前年同期比19.8%増)	862 億円
経常利益	60 億円 (前年同期比13.6%増)	149 億円
中間(当期)純利益	33 億円 (前年同期比9.3%増)	83 億円
店舗数	517 店舗 (前期末比48店舗増)	569 店舗
下期の主な取り組み		
<ul style="list-style-type: none"> ● 主力ブランドの商品企画機能・販売力の強化を図ります。 ● 「ジーナシス」、「ヘザー」、「アパートバイローリーズ」、「レブシムローリーズファーム」を中心に積極的に出店を行います。 ● ブランド複合店舗の出店など出店戦略の多様化を図ります。 ● 「アンダーカレント」については、「グローバルワーク」のブランド内展開を図ります。 ● 中期経営計画(TOP9)の総仕上げとして、人材力・組織力を一層強化します。 		

積極的な出店と改装により、着実な成長を継続しています。

当中間期の売上高は、前年同期比19.8%増の384億25百万円となり、さらなる成長を図ることができました。

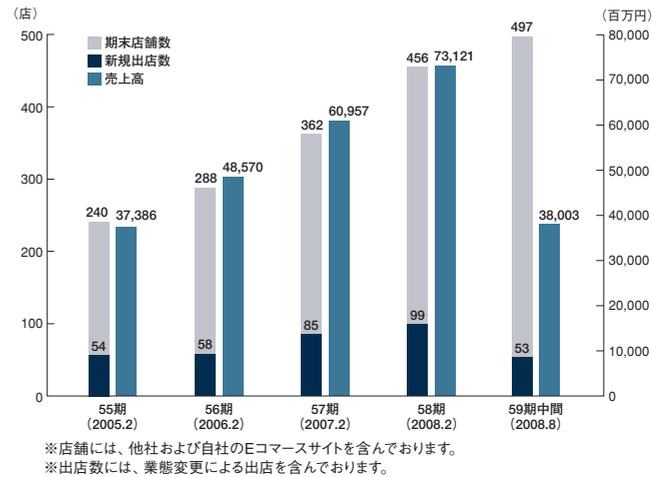
当期は、2007年11月の改正まちづくり三法の全面施行を受けて、ここ数年続いてきた郊外型SCの開業がピークを迎えます。当社も、これらSCへの出店を継続し、レプシムローリーズファームの18店舗(うち業態変更1店舗)を中心に新規出店を行いました。また、新ブランドであるインメルカートは当中間期に3店舗の出店を行い、順調な滑り出しを見せました。その結果、国内では53店舗の出店(うち業態変更2店舗)、12店舗の退店(同4店舗)となり、中間期末時点での国内店舗数は497店舗となりました。この結果、国内全店売上高は前年同期比119.9%となりました。

また、ローリーズファーム10店舗(国内)を中心に、国内合計で16店舗の改装を実施し、既存店の活性化に努めました。国内既存店売上高は前年同期比99.7%と、上期計画値である98.3%を上回る成果を残すことができました。

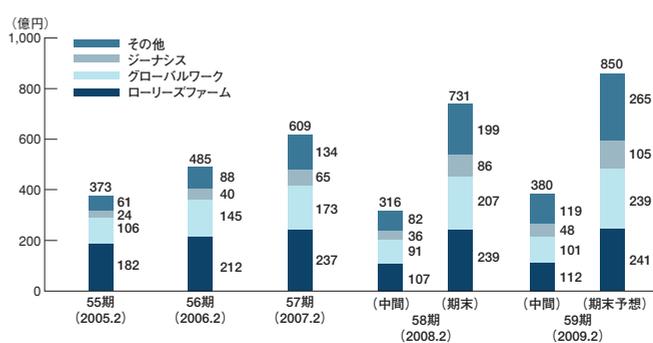
複数ブランドによる業容の拡大が着実に図られました。

国内においては、ローリーズファームが積極的な既存店のリニューアル(10店舗)により112億円と高水準の売上を維持するとともに、グローバルワークは8店舗を出店し、101億円の実績を残し、堅調に推移しました。また、この主力2ブランドに続く第3の柱として育成を図っているジーンシスが48億円となり、年商100億円の達成を視野に捉えました。これら主要3ブランドに続くレイジブルー、ヘザー、ハレも引き続き順調に成長しております。さらに、アパートバイローリーズ、レプシムローリーズファームも大きく伸長し、新ブランドのインメルカートも順調な滑り出しとなりました。特にレプシムローリーズファームは、売上高が21億円(前年同期比253.9%増)となり、大きく飛躍いたしました。

■ 国内店舗数の推移と売上高



■ ブランド別売上高の推移(国内)



新たな出店形態にチャレンジしています。



ローリーズファーム 三宮センタープラザ店



グローバルワーク イオンイケタウン店

ブランド複合店舗を出店しました。

2008年6月、神戸の中心地、三宮のセンタープラザに、ローリーズファームとアパートバイローリーズの複合店舗を出店しました。これまではローリーズファーム単独の店舗として出店していましたが、店舗面積を58坪と倍増し、アパートバイローリーズとの複合店舗として新たにスタートいたしました。ゆったりとした店内で、これまで以上に、「商品を選ぶ楽しさ」を感じていただける作りになっており、大変ご好評をいただいております。

ブランド複合大型店の出店を今秋以降に取り組みます。

ブランド複合店の発展形として、ブランド複合大型店の出店に実験的に取り組みます。複合店舗化によって、お客様にブランドをまたがってお買物をしていただきやすくなることに加え、大型店化によるレジや従業員配置の効率化などの、スケールメリットを追求することができるものと期待しております。下期の出店としては、9月に国内最大級のSCとなる埼玉県越谷市のイオンイケタウンにローリーズファームとアパートバイローリーズの複合店(128坪)、グローバルワークとアンダーカレントの複合店(210坪)を出店したほか、11月には、愛知県のイオンモール岡崎に、ローリーズファーム、ジーンシス、ヘザーの3ブランドによる複合店の出店を計画しております。

成長期ブランドを中心に積極的出店を図っています。



レプシムローリーズファーム くずは店



ジーナシス 郡山エスバル店

レプシムローリーズファームを中心に 出店を推進しました。

レプシムローリーズファームは、「シンプルでありながら新しさを感じる。日常生活の中に自然に溶け込む気取らないカジュアルスタイルを提案するブランド」として2007年2月期にスタートしました。立ち上げから3期目となる若いブランドですが、当中間期においては、新規出店18店舗（うち業態変更1店舗）と、出店戦略の核として当社の業容拡大に寄与しております。

下期においても、ヘザー、アパートバイローリーズとともに、成長期ブランドとして店舗展開を着実に実施し、一層の拡大を図ってまいります。

ジーナシスが 第3の柱としての力強さを増しています。

当社は、2大ブランド（ローリーズファーム、グローバルワーク）だけに依存することなく、積極的なブランド開発を続けることによって、業容の拡大や経営の安定化を図ってまいりました。中でもジーナシスは、第3の柱とすべく育成を図ってきたところです。素材・ディテールにこだわり、その時々々のトレンドを独自の視点、感覚で企画するジーナシスは、ターゲットである20歳代の女性から高い支持をいただいております。当中間期における売上高は48億円に達し、年商100億円の達成が射程圏内に入ってきました。今後も引き続き複数ブランドの育成に努め、継続的な成長を図ってまいります。

新たな成長の源泉として育成しています。



インメルカート 防府店

新ブランド「インメルカート」は 順調に推移しています。

2008年4月、近隣型ショッピングセンター（NSC）向けの新業態として、新ブランドのインメルカートを立ち上げました。山口県防府市のロックシティ防府へ第1号店を出店したのを皮切りに、当中間期に計3店舗の出店を行いました。NSCは、住宅地の徒歩圏や、自動車ですら10～15分程度の場所に、日常のお買物ができる小型の商業施設として立地しているケースが多く、これまで当社がアプローチをしてこなかった新たなお客様に対して「気軽に楽しむ普段着」を提案できるブランドとして開発しました。

お陰様で、当中間期に出店した3店舗はいずれも好調なスタートを切ることができました。この結果を踏まえ、今後、積極的な出店を行っていく予定です。



ローリーズファーム TELFORD PLAZA店

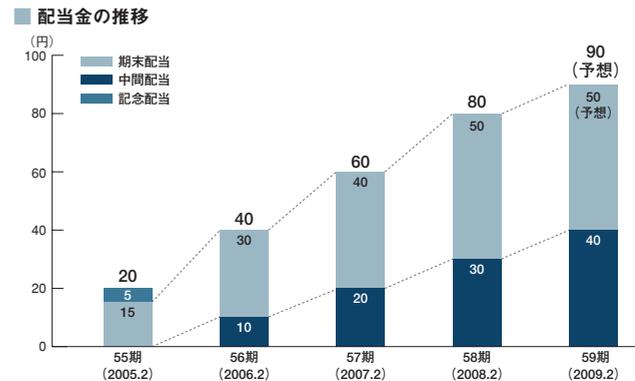
香港における店舗展開も 順調に進展しています。

2007年12月に香港に現地法人を設立し、2008年3月にローリーズファーム、ジーナシスを出店しました。香港進出は、台湾に続く当社グループの海外展開の第2段階に当たります。当中間期は、ローリーズファーム3店舗、ジーナシス2店舗の計5店舗の出店を実施しました。現在、「東京」「日本」発のリアルクローズが世界的にも高い注目を集めておりますが、このたびの香港進出に際しては、現地での当社ブランドの知名度が高かったことから、大変順調な滑り出しとなりました。当初計画では、当期末までの出店は5店舗の予定でしたが、ディベロッパーからも高い評価をいただいております。下期にさらに3店舗の出店を予定しております。

中間増配を決定しました。

当社は、魅力あるブランドの開発、商品の提供に必要な事業への投資を行い、一層の企業価値(株主価値)の向上を図っていくとともに、株主の皆様への還元についても安定した配当を維持しながら、業績に応じて増配を行っていくことを基本方針としております。

当期の中間配当金につきましては、期初において1株当たり30円(前中間期と同額)を予想しておりましたが、業績が順調に推移していることを踏まえ、10円増配の40円に修正することといたしました。当期の期末配当予想は1株当たり50円(前期末と同額)ですので、年間配当は90円への増配予定となります。



経営報告会を開催し、事業展開をご説明いたします。

恒例となっております経営報告会ですが、このたびもより多くの株主の皆様にご参加いただけるよう、東京と大阪で開催いたします。右記のとおり、どちらの会場も週末の開催となり、株主の皆様との交流を図る貴重な機会と考えておりますので、多数の方のご参加をお待ちいたしております。

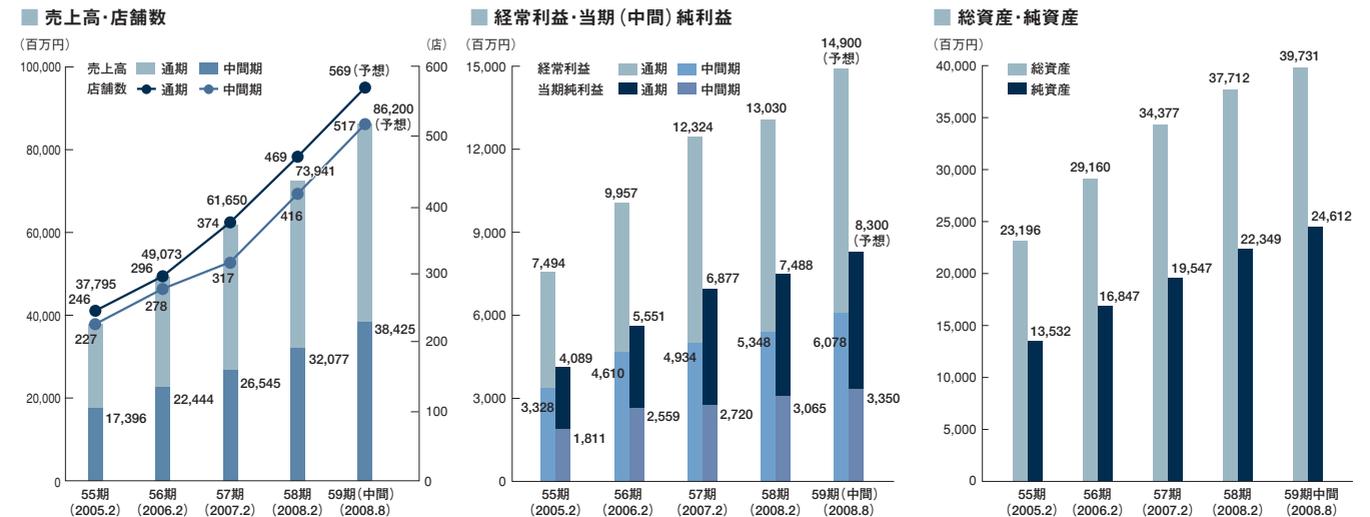
また、ご参加いただいた方には、ささやかな品ではございますが、エコバッグとタオルをご用意しております。

ポイント経営報告会

東京会場 日時：2008年11月15日(土) 11時～12時
場所：六本木アカデミーヒルズ 40 キャラントA

大阪会場 日時：2008年11月16日(日) 11時～12時
場所：リーガロイヤルNCB 松の間

※受付開始はいずれも10時30分を予定しております。
※詳細は同封しておりますご案内状をご覧ください。



	56期 (2006年2月)	57期 (2007年2月)	58期 (2008年2月)	58期(中間) (2007年8月)	59期(中間) (2008年8月)
売上高(百万円)	49,073	61,650	73,941	32,077	38,425
経常利益(百万円)	9,957	12,324	13,030	5,348	6,078
当期(中間)純利益(百万円)	5,551	6,877	7,488	3,065	3,350
総資産(百万円)	29,160	34,377	37,712	34,043	39,731
純資産(百万円)	16,847	19,547	22,349	21,751	24,612
店舗数(店)	296	374	469	416	517
1株当たり当期(中間)純利益(円)	216.22	270.25	298.92	121.53	135.35
1株当たり純資産額(BPS)(円)	659.17	775.00	900.95	860.55	988.56
総資産当期純利益率(ROA)(%)	21.2	21.6	20.8	—	—
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	36.5	37.8	35.8	—	—

■ 中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2008年8月31日現在)	前中間期 (2007年8月31日現在)	前期 (2008年2月29日現在)
●資産の部			
流動資産	22,226	17,583	20,895
現金及び預金	11,818	11,146	13,856
売掛金	4,002	2,873	2,789
有価証券	1,997	—	—
たな卸資産	3,455	2,658	3,496
その他	1,018	961	799
貸倒引当金	△66	△55	△45
固定資産	17,505	16,459	16,817
有形固定資産	3,037	3,052	2,983
無形固定資産	433	237	390
投資その他の資産	14,034	13,169	13,443
投資有価証券	3,237	4,099	3,145
保証金敷金	8,463	7,216	7,961
その他	2,569	2,110	2,557
貸倒引当金	△236	△257	△221
資産合計	39,731	34,043	37,712
●負債の部			
流動負債	14,894	11,914	14,946
買掛金	8,128	6,617	8,960
短期借入金	13	35	24
未払金	2,955	2,453	2,711
未払法人税等	2,537	2,025	2,391
賞与引当金	996	739	746
役員賞与引当金	173	—	—
その他	90	43	111
固定負債	223	377	417
長期借入金	—	13	3
賞与引当金	—	76	102
役員賞与引当金	—	100	134
役員退職慰労引当金	114	114	114
その他	109	73	63
負債合計	15,118	12,292	15,363
●純資産の部			
株主資本	24,955	21,676	22,842
資本金	2,660	2,660	2,660
資本剰余金	2,517	2,517	2,517
利益剰余金	26,455	20,676	24,342
自己株式	△6,677	△4,177	△6,677
評価・換算差額等	△481	40	△537
新株予約権	55	33	44
少数株主持分	83	—	—
純資産合計	24,612	21,751	22,349
負債及び純資産合計	39,731	34,043	37,712

》》 たな卸資産

毎期末時点の商品状況に応じて、適切な評価を行っております。

》》 保証金敷金

国内店舗数が前期末比41店舗増加したことに伴い、出店時にディベロッパーへ預け入れる保証金敷金が増加しております。

》》 短期・長期借入金

有利子負債のさらなる削減を進めました。

》》 純資産

毎期着実な純資産の積み上げを図っております。

■ 純資産/自己資本比率



■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2008年3月1日～ 2008年8月31日)	前中間期 (2007年3月1日～ 2007年8月31日)	前期 (2007年3月1日～ 2008年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,320	582	7,943
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,116	△5,044	△6,411
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,251	△1,409	△4,686
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	3	△5
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△41	△5,868	△3,159
現金及び現金同等物の期首残高	13,849	17,009	17,009
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	13,808	11,141	13,849

》》 投資活動によるキャッシュ・フロー

新規出店・改装に伴う投資を積極的に行いました。

》》 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払いと借入金の返済を行いました。

■ 中間連結株主資本等変動計算書(要旨) 当中間期(2008年3月1日～2008年8月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
前期末残高	2,660	2,517	24,342	△6,677	22,842	△537	44	—	22,349
当中間期変動額									
剰余金の配当			△1,237		△1,237	—			△1,237
中間純利益			3,350		3,350	—			3,350
自己株式の取得				△0	△0	—			△0
その他			△0		△0	—			△0
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)					—	56	11	83	151
当中間期変動額合計	—	—	2,112	△0	2,112	56	11	83	2,263
当中間期末残高	2,660	2,517	26,455	△6,677	24,955	△481	55	83	24,612

■ 中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 (2008年3月1日～ 2008年8月31日)	前中間期 (2007年3月1日～ 2007年8月31日)	前期 (2007年3月1日～ 2008年2月29日)
売上高	38,425	32,077	73,941
売上原価	15,219	12,280	29,244
売上総利益	23,206	19,797	44,696
販売費及び一般管理費	17,225	14,493	31,736
営業利益	5,980	5,303	12,960
営業外収益	114	65	149
営業外費用	17	19	78
経常利益	6,078	5,348	13,030
特別利益	—	—	45
特別損失	386	252	487
税金等調整前中間(当期)純利益	5,691	5,096	12,588
法人税、住民税及び事業税	2,474	1,882	4,850
法人税等調整額	△132	148	249
少数株主損失	1	—	—
中間(当期)純利益	3,350	3,065	7,488

▶▶▶ 特別損失

退店・改装に伴う賃借契約解約に伴う損失、固定資産除却損および減損損失が発生しました。

退店

当中間期は、店舗戦略の見直し等により、個々に十分な検討を行った結果、12店舗の退店(うち業態変更4店舗)を行いました。

改装

当中間期も、店舗鮮度維持、ブランド価値向上を狙って、19店舗の改装を行いました。

ローリーズファーム 河原町店
(2008年3月リニューアル)



減損損失

一定の基準に基づき、減損損失を計上しております。当中間期は、4店舗が対象となり53百万円を計上しました。

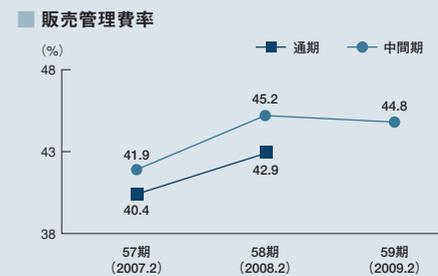
▶▶▶ 売上総利益の状況

前年同期においてプラスに寄与していた商品評価の影響がほとんどなかったこともあり、売上総利益率は60.4%と若干低下しましたが、引き続き高い水準を維持しています。



▶▶▶ 販売費及び一般管理費

広告宣伝の積極的な取り組みや人材の前倒し採用を計画的に行う一方、効率的なオペレーションの実施により、販売管理費率は44.8%と改善しました。



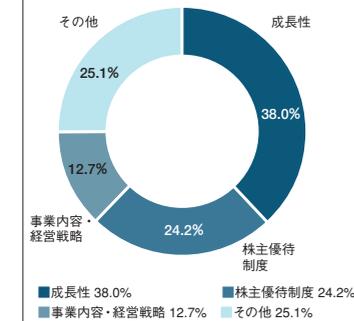
当社では、株主の皆様のご意見・ご要望をお聞きし、今後の事業活動に活かしたいと考え、第58期年次報告書をお送りした全ての株主の皆様を対象に葉書形式のアンケートを実施いたしました。

ご協力いただいた皆様にあらためてお礼申し上げますとともに、その結果の一部を以下のとおりご報告申し上げます。

皆様からいただきました貴重なご意見やご要望を真摯に受け止め、今後の

1 主な購入理由は「成長性」

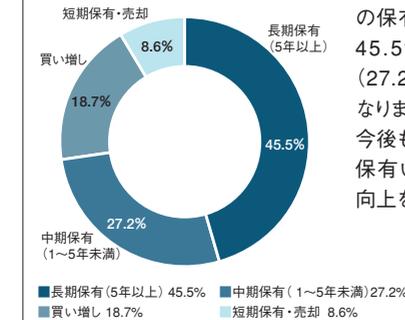
■ 株式の購入理由



38.0%の方が、「成長性」を当社株式の購入理由として挙げてくださいました。当社は、今後も引き続き複数ブランドの育成および海外展開などを推進し、持続的成長を図ってまいります。また、株主優待制度についても、継続してまいります。

3 今後の保有方針は「長期保有」

■ 当社株式の今後の保有方針



5年以上の「長期保有」を当社株式の保有方針とされている株主様は45.5%と最も高く、「中期保有」(27.2%)、「買い増し」(18.7%)となりました。今後も株主の皆様様に未永く株式を保有いただけるよう、企業価値の向上を目指してまいります。

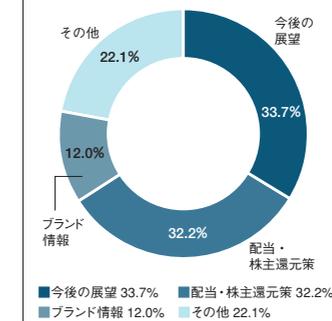
事業活動に活かしてまいりたいと考えておりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

調査概要

調査対象: 全株主9,723名
調査方法: 第58回定時株主総会決議ご通知に同封(2008年5月28日発送)
有効回答数: 286件(返送率: 2.9%)

2 もっと知りたい情報は「今後の展望」

■ もっと知りたい情報



当社についてもっとお知りになりたい情報は「今後の展望」で、全体の33.7%となりました。年次報告書・中間報告書において、今後の経営戦略の方向性を分かりやすくお伝えしておりますが、今後も情報発信に努めてまいります。また、今年も経営報告会を開催いたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。

(ご案内を7ページに掲載しておりますので、ご参照ください。)

株主様から寄せられたご意見を紹介します。(順不同)

- ブランドのイメージを下げずによりかわいい服を作ってください。(30代・女性)
- 海外戦略を展開していかれることを期待します。(50代・男性)
- グローバルワークの服が気に入って株主となりました。(30代・女性)
- 企業名の認知度向上を図ってはどうか。(60代・男性)

■ 会社概要

会社名	株式会社ポイント
本部	東京都中央区八重洲二丁目7番2号 八重洲三井ビルディング10階
代表電話	03-3243-6011
設立	1953年10月
資本金	2,660百万円
代表者	代表取締役社長 石井 稔晃
事業内容	カジュアルウェア専門店チェーン
事業所	水戸本店 東京本部 国内店舗数 497店舗
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行 常陽銀行
社員数	正社員1,488名
平均年齢	26.9歳

■ 取締役・監査役

代表取締役会長	福田 三千男
代表取締役社長	石井 稔晃
取締役専務執行役員	遠藤 洋一
(管理本部・経営企画室・情報システム室担当)	
取締役専務執行役員(開発室担当)	勝山 章廣
取締役常務執行役員(営業統括本部長)	櫻井 健一
取締役常務執行役員(社長室長)	時松 克治
取締役執行役員(管理本部長)	松田 毅
取締役	加藤 章
常勤監査役	新名 宏志
監査役	横山 哲郎
監査役	前川 渡
監査役	高橋 惇

※取締役のうち、加藤章は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 ※監査役のうち、新名宏志、横山哲郎、前川渡は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 連結子会社

株式会社ボジック	
資本金	10百万円
当社の議決権比率	100%
主な事業内容	当社取扱商品の物流業務
事業所	水戸物流センター、福岡物流センター、岩間物流センター

■ 波茵特股份有限公司

資本金	10百万台湾ドル
当社の議決権比率	100%
主な事業内容	台湾における衣料販売業務
事業所	台北本部 台湾店舗数 15店舗

■ POINT HOLDING CO.,LTD

資本金	25百万香港ドル
当社の議決権比率	75%
主な事業内容	香港における衣料販売業務
事業所	香港本部 香港店舗数 5店舗

当社のIRサイトでは、株主の皆様、投資家の皆様へのきめ細かな情報提供を目指し、ニュースリリースや売上速報などの迅速な情報開示のほか、動画による説明会様様の配信やIRメールの配信など、多彩なコンテンツを揃えております。IRメールにご登録いただいた方には、随時、当社の決算情報、月次売上概況、プレスリリースなどのIR・企業情報を配信しております。皆様とのコミュニケーションを深める一助としたいと考えておりますので、是非ご活用ください。

■ 株式の状況

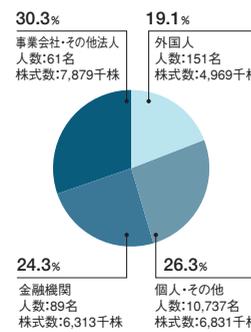
発行可能株式総数 50,000,000株
 発行済株式の総数 25,990,720株
 株主数 11,038名

大株主(上位9名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社テツカンパニー	2,174	8.8
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,623	6.6
株式会社フクゾウ	1,510	6.1
株式会社武平	1,500	6.1
株式会社月岡	1,500	6.1
福田 三千男	1,299	5.2
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,207	4.9
ステートストリートバンクアンド トラストカンパニー	769	3.1
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	709	2.9

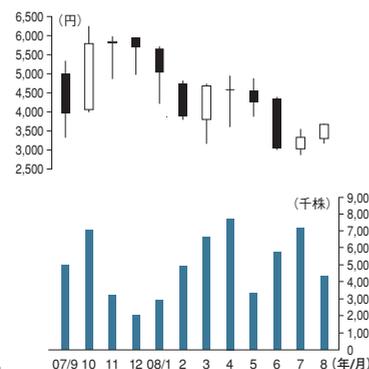
※持株比率は自己株式(1,233,890株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式数分布状況



※金融機関には金融商品取引業者を含みます。

■ 株価・売買高の推移



■ 株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
株主総会	1. 定時株主総会は、毎年5月に開催いたします。 2. 臨時株主総会は、必要あるときに随時開催いたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同連絡先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村証券株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故、その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.point.co.jp/

お知らせ

○株式関係のお手続き用紙のご請求について
 株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。
 TEL 0120-244-479 (本店証券代行部)
 TEL 0120-684-479 (大阪証券代行部)
 インターネットホームページ <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>
 なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある金融商品取引業者(証券会社等)にご相談ください。

■ 株主優待制度のご案内

当社株式をご所有の株主の皆様へ、全国の当社店舗でご利用可能な商品引換券を贈呈させていただきます。(権利確定日:2月末)

所有株式数	商品引換券贈呈額
10株以上100株未満	2,000円
100株以上1,000株未満	5,000円
1,000株以上5,000株未満	10,000円
5,000株以上	20,000円